

# 町政を問う!!

8 議員が質問・提案を



瓶詰めされた  
“ラッキョウ”

## ラッキョウ

### 後継者・高齢者対策を急げ

### ラッキョウ部会と協議連携



おくもと 哲也 議員

**問** ラッキョウ耕作者及び切り手作業員の高齢化問題について、町として早急な取り組みが必要と思うが。

**答** 宮地 農業振興課長

農業戸数、栽培面積、出荷量とも大幅に減少している。JAラッキョウ部会の平均年齢は68歳となっており、他

の部会と比較して10歳以上の高齢化が進んでいる。

農業全般への補助事業等を活用し、実施していくことは当然だが、新規就農者にも取り組んでいかななくてはいけないと思っている。

今後、農地を集約し専門的な農家の育成を目指すのか、兼業農家を中心とした担い手を育成するのか、産地としての在り方について、部会等を通して把握していく。若い漁業者を含め、陸と沖との複合経営のモデルをしっかりと作り上げることが必要だと思う。切り手作業員の高齢化も一層進んでおり、切り手の確保、機械化等必要だと思われるが、労働条件を考えると人的確保は困難と考える。

このことについてもラッキョウ部会と協議し連携を図っていきたい。

## 漁業振興対策

### 深海はえ縄漁 ブランド化を

### 維持、向上に 努める

**問** 深海はえ縄漁について、これからの担い手のため、漁具の改良、先進地学習、今以上のブランド化の取り組みができないか。漁場の管理についても併せて問う。

**答** 松田 副町長

漁具については、漁業者の創意工夫で作られている。漁

具の改良、新たな技術、仕掛けなどは、視察研修が一番習得の機会だと思う。今年については長崎県等を予定している。県の漁業振興課の力を借りて、先進地の視察先を検討していく。

ブランド化も活力再生プランの中で漁業者と共に取り組んできた。現在、全国の市場から高評価を頂いている。今後も関係機関と連携し、ブランドの維持、向上に努めていく。

漁場については、大臣許可制なので、情報収集をして現状を訴えていきたい。



深海の高級魚“赤モツ”